

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「クラブと地区の  
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「しなやかな変化で  
奉仕を高めましょう」



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー  
2560地区ガバナー 新保 清久  
高田ロータリー会長 橋詰 敏一  
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守  
小池 猛紀

## 第12回例会 ■ 9月29日(金)

No.12

### 会長挨拶 ● 橋詰 敏一



今日は、ぐっと気温が下がり秋らしくなりました。昨晚遅くになりますと冬の代表星座であるオリオン座が東の夜空に見えるようになりました。夏の天候不順の影響が心配でしたが、稲作も主力のコシヒカリの収穫が無事終わりホッとしている所です。昨年より少々小粒の感じがあります。この週末に、ロータリーオークション米をお届けできると考えています。このところ日本を含め、世界の気象が荒っぽくなっておりますが、国際社会や国内もそれにつられたかのように、少々荒々しく変化しております。国際理解、親善、平和を推進する我々ロータリアンとして、心穏やかならぬ所ですが、個々の立場にてしっかり行動していただきたいと思えます。

さて、皆さんは各々趣味をお持ちの事と思いますが、私の数少ない趣味の中で映画鑑賞があります。スクリーン派である私、先々週封切られた「ダンケルク」を鑑賞しました。時は第2次世界大戦

ヨーロッパフランス戦線でドイツ軍に追い詰められたイギリス・フランス両軍が、ドーバー海峡に面する都市「ダンケルク」の海岸から、イギリス側に撤退する場面、歴史に残る史上最大の撤退作戦を描いています。進むも退くも地獄の戦争を、若い兵士の生き抜こうとする姿と身を捨てても国を守ろうとする空軍パイロットの姿が、言葉少なく丁寧な描写・カットにて表現され、アカデミー賞有力候補にふさわしい作品でした。過去に同じくフランス戦線で歴史上有名なノルマンディー上陸作戦から実話を描いた「プライベート・ライアン」。こちらは、フランス奪還の進行作戦で、アカデミー賞受賞作品があります。皆さんも秋の夜長に、スクリーンでの映画鑑賞はいかがでしょう。映画館は、土曜夜がお勧めです。ご夫婦ですと割引が有りお得です。

### 出席報告

出席率 98.28%

## メイクアップ

チャールズ・C・ストラットン君——9/27 新井 RC にて卓話

## 委員会報告

出席ニコニコ BOX 委員会

橋詰敏一君——無事に秋の収穫ができ、「ロータリーオークション米」をお届けできます。天の恵みに感謝致します。

社会奉仕委員会——10/7 植樹事業について

10:00 高田ターミナルホテル出発（バスにて移動）

12:00 植樹終了後高田ターミナルホテルにて昼食後解散

青少年奉仕委員会——10/14・15 ライラ研修のご案内

## 幹事報告

配布物：週報No.11・会員名簿・ロータリーの友  
10月号

## 会員卓話

### 川上善兵衛と坂口謹一郎博士の関係



今年の上越市出身の坂口謹一郎博士の生誕 120 年に当たります。坂口博士は、岩の原葡萄園の創業者・川上善兵衛とも深い繋がりがあり、二人の関係を中心に話をしたいと思います。

坂口博士は善兵衛さんより 30 歳年下で、明治 30 年に高田で生まれました。善兵衛さんの三女トヨさんの夫は、高田出身の中国文学者で京都・東京大学教授になった倉石武四郎さんになりますが、その妹カウさんの夫が坂口博士になります。こうした縁戚関係があったため、善兵衛さんのワインづくりの研究で二人は強い協力関係となります。博士は、第 2 次世界大戦中は、東京大学で収集した全国各地の麹菌を確実に保管するために研究室を一時高田農業高校へ疎開したこともありました。そこで無事に保管された沖縄の泡盛に使っていた麹菌が保管されていたため、沖縄戦で麹菌を喪失してしまった酒蔵で、保管していた麹菌で泡盛を作った話があります。また、坂口博士は、文化勲章や勲一等瑞宝章などを受章され、さらに

### 棚橋 博史 君

は昭和 50 年皇居で行われた歌会始めの召人となるなど文化人としても名が知られています。坂口博士の研究には、微生物に関するものがいくつもあります。日本酒作りの為に重要な麹菌の研究をはじめ、ワイン発酵用の酵母（OC-2）の分離も有名です。この研究は善兵衛さんと共同で行われたものです。その他にも多くの研究がありますが、大戦末期に行われたペニシリンの研究は非常に興味深い研究です。また、善兵衛さんの思い切ったワインづくりへの情熱から資金が不足してしまった際に丁度本格的ワインづくりを目指していた鳥井信治郎（サントリー創業者）を結び付けたのも博士です。更に 3 人で現在のサントリー登美の丘ワイナリーを選定し、その農場長に善兵衛さんの娘婿が就いています。

和食は日本の食文化ですが、米、大豆、麦などが豊富にとれる上越は、湿潤な気象環境のため得られた麹や酵母と優秀な人材で発酵のまちを作ったことは必然であるように思います。